

(写真：綿毛満開)

# 平成26年度 尾瀬山の鼻ビジターセンター 尾瀬ブナの森ミュージアム 運営記録

## (目 次)

施設位置図		巻 末 資 料	
尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録	… 1	・ビジターセンター傷病者対応事例	… 14
コラム「尾瀬ボランティア」	… 10	・尾瀬のできごとをふりかえる	… 16
尾瀬ブナの森ミュージアム運営記録	… 11	コラム「一般の方から寄せられた声」	… 18
コラム「尾瀬自然解説ガイド」	… 13	平成26年シーズンの尾瀬トピックス	… 19
		尾瀬保護財団の沿革と概要	… 20
		ビジターセンターの自然体験プログラム	

公益財団法人 尾瀬保護財団

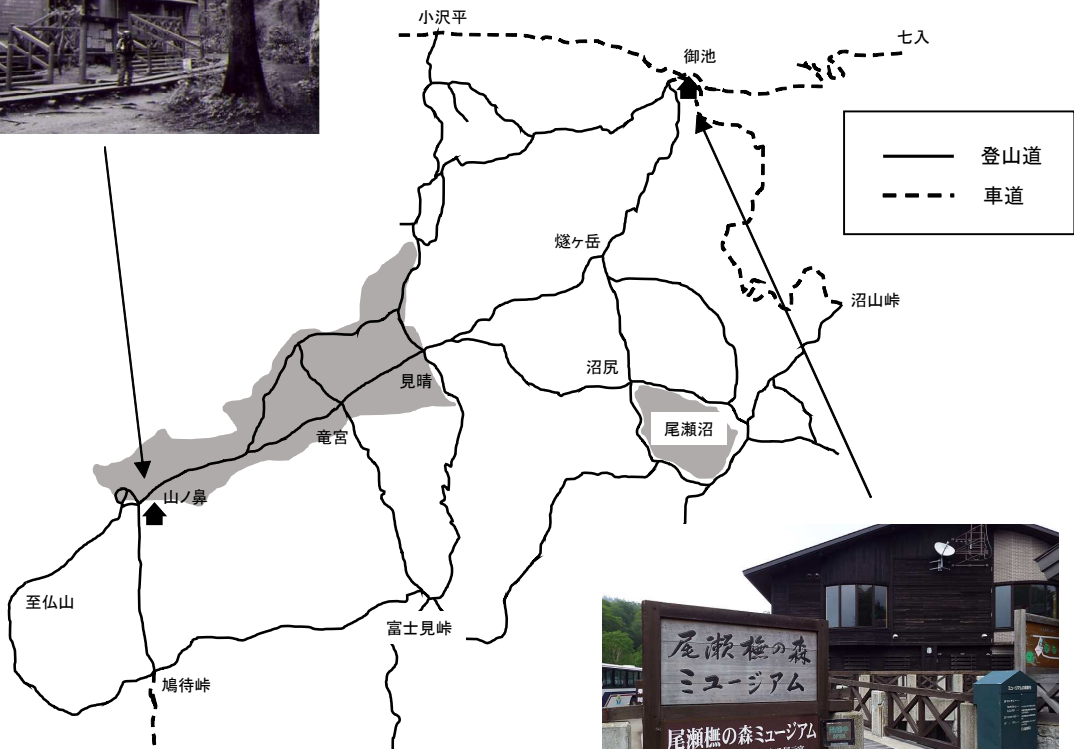
## 施設位置図



### ← 尾瀬山の鼻ビジターセンター

〒378-0411 群馬県利根郡片品村

大字戸倉字中原山898-9



### 尾瀬ブナの森ミュージアム →

〒967-0525 福島県南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳1番地



## 交通案内

尾瀬山の鼻ビジターセンターまでは・・・

- ・群馬県片品村の鳩待峠から徒歩で約60分。
- ・鳩待峠まではふもとの戸倉から乗合バス・タクシーで約25分

尾瀬ブナの森ミュージアムまでは・・・

- ・福島県檜枝岐村の御池にある尾瀬御池ロッジ内。
- ・御池には大型駐車場が整備されていますが、満車時にはふもとの近い七入駐車場に駐車をお願いする場合があります。その際には、代替輸送としてシャトルバスが運行しています。
- ・御池まではふもとの檜枝岐村からバスで約30分。

## 平成26年度 尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

### I ビジターセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジターセンター（以下、山の鼻ビジターセンター）の管理運営を平成8年度から受託しています。

#### 1 運営期間

(1) 職員駐在：平成26年 4月25日 ～ 平成26年10月31日 （190日間）

(2) 開所期間：平成26年 5月16日 ～ 平成26年10月26日 （164日間）

(3) 休 館 日：なし

※4月25日～5月15日は仮オープン（開設準備等）です。

#### 2 取扱時間

(1) 施設開館 7:30～18:00

(2) 窓口案内 7:30～16:00

※開館時間は、入山者の状況に応じて柔軟に対応しています。

#### 3 入館者数

117,411人（平成25年度は、121,245人、前年度比 96.8%）

#### 4 職員構成

(1) 人数 9人 ※うち2人（\*）は群馬県職員

(2) 構成

職	氏 名	主 な 分 掌 業 務
所 長	笹原宗利	全体総括
*主 幹	宝珠山恭子	管理運営、自然解説（駐在期間9月から10月）
*主 任	高橋あかね	管理運営、自然解説（駐在期間5月から6月）
主 事	宇野翔太郎	情報管理、事務管理、自然解説、施設管理
嘱 託	大泉和寛	統括補助、環境学習指導、自然解説、施設管理
管理員	森山暢希	登山道整備、情報収集、窓口対応、自然解説
管理員	阪路善彦	自然解説、クマ対策、窓口対応、施設管理
管理員	山崎悠登	登山道整備、情報収集、自然解説、窓口対応
管理員	川上 藍	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管理員	高堀かな	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応

### II 自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然とのふれあいを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的としています。

そのため、山の鼻ビジターセンター内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 平成26年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライドショー	団体レクチャー	環境学習
参加者数(人)	391(89.1%)	1,411(92.4%)	519(89.1%)	203(47.7%)
実施回数(回)	46(45)	48(50)	19(16)	43(88)

(注) 1 表中カッコは、上段(%)が前年度比、下段(数値)が前年度実績回数

2 環境学習は平成21年度から申込を受けて行うよう実施方法を変更

## 1 自然観察会 (写真 1)

週末や繁忙時期(ミズバショウ期、ニッコウキスゲ期、紅葉期)を中心に、山ノ鼻研究見本園を会場として実施しました。

(1) 実施場所：山ノ鼻植物研究見本園

(2) 実施時間：7:15～8:00

(3) 担当者：山の鼻ビジターセンター職員

## 2 スライドショー

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、スライド等を活用し、季節写真や図表等を用いて、担当者の解説と合わせて尾瀬への理解を深めてもらいました。

(1) 実施場所：山の鼻ビジターセンター内のレクチャールーム

(2) 実施時間：19:00～19:40

(3) 担当者：山の鼻ビジターセンター職員

## 3 環境学習ミニガイドツアー

山の鼻ビジターセンター周辺での解説者(ガイド)付きの自然観察を含む環境保全施設見学ミニツアー(環境学習ミニガイドツアー)を行いました。

施設の見学ツアーについては、山ノ鼻地区の公衆トイレをメインに排水処理のしくみや汚泥処理作業、また、環境を守るためには多くの費用がかかることなど、環境保全への取り組みについて説明しています。

(1) 実施日：5月下旬～10月中旬までの毎日

(2) 実施場所：山の鼻ビジターセンター周辺の県有施設、研究見本園、及びその周辺

(3) 対象者：家族連れ等の少人数のグループ及び学校等の教育旅行団体

(4) 実施時間：1行程あたり1時間以内

(5) 担当者：環境学習指導員、尾瀬ボランティア等

## 4 団体レクチャー (写真 2)

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

## 5 館内解説

不定期で館内展示物の利用案内を含めた解説を、職員や尾瀬ボランティアが実施しました。

## 6 展示

- (1) タッチパネル方式による尾瀬情報の検索
- (2) 植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
- (3) 気象情報（館内や野外掲示板に表示）
- (4) 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子展示
- (5) 時節ごとの観察ポイントを紹介した写真やイラスト
- (6) 尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示
- (7) バス・電車などの公共交通機関の情報提供
- (8) 至仏山にある蛇紋岩の展示
- (9) オコジョ、ヤマネコーナー（写真、目撃情報の紹介）
- (10) 写真展示コーナーの設置（野鳥、植物）
- (11) 樹木（木片）の展示
- (12) ツキノワグマコーナー（生態、目撃情報、対策等の紹介）、剥製の展示
- (13) 尾瀬国立公園のジオラマ、レリーフマップの設置
- (14) 現地に駐在する職員が撮影した写真を投票形式で展示

## 7 自然情報等の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が定期的に尾瀬ヶ原、至仏山、アヤマ平、尾瀬沼、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳方面を巡回し、自然の状況を調査しました。その結果を「尾瀬情報」としてまとめ、尾瀬周辺の各施設、財団ホームページ、関係各機関へ提供しました。また、毎朝の天候、最低最高気温、学校団体の入山情報及び、毎日のトピックスを「今朝の尾瀬山ノ鼻」、「今日の尾瀬」として毎日、ブログで情報発信を行いました。

放射線量の測定を山の鼻ビジターセンター前で週1回（毎週月曜日）、牛首分岐等の尾瀬内3ヶ所は巡回に合わせて実施し、その結果を財団ホームページで公表しました。

## Ⅲ その他の公園施設等の維持管理（写真 3, 4）

尾瀬保護財団では、山の鼻ビジターセンターの他に、群馬県が整備した、山の鼻公衆トイレ（山ノ鼻地区）、竜宮公衆トイレ（竜宮地区）および群馬県所管の木道・橋等を、平成8年度から管理受託しています。

### 1 山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

#### (1) 供用期間

平成26年4月24日～平成26年11月10日（201日間）

#### (2) 利用者数

244,727人（男性132,337人 女性112,390人）

（参考）平成25年度：	285,325人（男性146,357人	女性138,968人）
平成24年度：	199,788人（男性 71,859人	女性127,929人）
平成23年度：	224,447人（男性116,620人	女性107,827人）
平成22年度：	265,338人（男性138,202人	女性127,136人）
平成21年度：	259,306人（男性136,159人	女性123,147人）

### (3) 維持管理の実際

#### ① 清掃

1日1回の定時清掃のほか、随時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

#### ② 点検

1日数回のペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

#### ③ 合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、絶えず異臭や異状の有無を把握するように努めました。

#### ④ 啓発活動

環境保護のためのトイレ施設の紹介と協力金呼びかけの掲示を作成しました。

## 2 竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。職員は、定期的に協力金の回収と清掃やその他管理状況の点検を行いました。

## IV 植生復元等の事業の実施

### 1 荒廃した湿原の植生復元作業地の経過観察

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受けて、平成16～18年度に施工した植生復元作業地の回復状況についての経過観察を巡回時に実施しました。

(1) 実施場所：横田代 標高約1880m付近

(2) 実施回数：巡回時随時

(3) 実施内容：平成18年度に設置した観察区(5区)について経過観察としての写真撮影

### 2 至仏山保全対策の各種取り組み（写真 5）

当財団が設置する至仏山保全対策会議において、植生保護・登山者安全の観点から、至仏山東面登山道を山ノ鼻登山口からの上り利用とし、下りでの使用は禁止としました。また、東面登山道裸地D, Fブロックの荒廃地についても平成22年度から尾瀬ボランティアと協力し、植生回復作業を実施しました。

山の鼻ビジターセンターではマスコミ関係への周知、各登山口への注意看板の設置、各山小屋等への情報提供を行いました。また、東面登山道の踏み込み防止柵の設置・撤去及び、登山道の補修作業については、尾瀬ボランティアの協力の下、作業を実施しました。

### 3 至仏山気象観測（写真 6）

至仏山保全対策の実効性や評価に資するため、至仏山の気象に関する基礎資料を整備することを目的に、至仏山8箇所に9基の気象観測装置を設置し、温度・雨量の計測を行いました。

## V 巡回活動の実施

歩道の安全確保、自然情報・利用情報収集、利用者への案内・解説・啓発、美化清掃等を目的に実施しました。

## 1 巡回のエリアと頻度

- ①竜宮方面 : 1回／週
- ②見晴方面 : 1回／週
- ③赤田代方面 : 1回／週 程度
- ④三条ノ滝方面 : 1回／月
- ⑤至仏山方面 : 2回／月
- ⑥アヤマ平方面 : 2回／月
- ⑦長沢、見晴方面 : 2回／月

## 2 尾瀬沼・檜枝岐方面（巡回のエリアと頻度）

- ①尾瀬沼方面 : 2回／月
- ②燧ヶ岳 : 1回／月
- ③会津駒ヶ岳 : 1回／月
- ④田代・帝釈山 : 1回／月

## VI その他

### 1 収入金の管理

パンフレット協力金、募金、公衆トイレチップ等による収入金を集計・管理しました。

### 2 開所式の実施（写真 7）

本年度の山の鼻ビジターセンターの開所式を、平成26年5月16日、尾瀬関係者や山小屋関係者、登山者（約30名）の参加により開催しました。余興として今回も、尾瀬ボランティアによるハーモニカ演奏もしていただきました。

### 3 尾瀬ボランティアの活動支援

シーズンを通じた入山口啓発活動やシーズン終盤の「ありがとう尾瀬清掃活動」のコーディネート、現地窓口としてのボランティア活動支援を行いました。（尾瀬ボランティアについては、P. 10のコラムを参照してください）

### 4 傷病事故の対応

山の鼻ビジターセンターで扱った今年度の傷病事故件数は、61件（平成25年度は76件）ありました。山の鼻ビジターセンター窓口での簡易な手当や、片品村遭難対策救助隊の臨時隊員として担架搬送に協力した件数が含まれます。

※18年度(9月中旬)よりAED(体外式自動除細動器)を山の鼻ビジターセンターに設置。

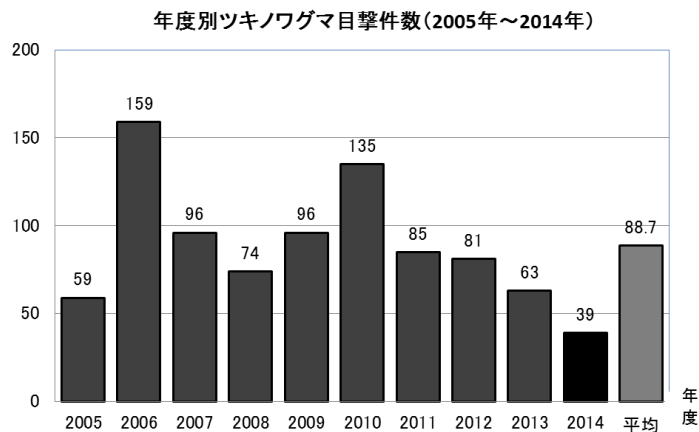
24年度は尾瀬ヶ原地区（群馬県側）救助体制の流れを整理しました（救急連絡系統図、対応等作成）。

（巻末資料1「傷病者対応事例」P. 14 もあわせてご覧ください）

### 5 ツキノワグマ対策（写真 8）

ツキノワグマ対策員に任命された職員が、ツキノワグマ出没対応マニュアルに基づいて対策を行いました。職員は平成26年5月17日に群馬県主催のツキノワグマ対策研修を受け、目撃情報収集・普及啓発・刈払い作業等に協力した他、巡視や追い払いを行いました。

目撃件数は、39件（25年度：63件）となりました。例年と同様に8月の目撃件数は多いですが、今シーズンは近年と比較して目撃件数が少ないことが特徴でした。



## 6 ゴミの計量及び域外搬出

群馬県のゴミ処理方針に基づき、山の鼻ビジターセンターから発生したゴミは、尾瀬地域から域外搬出して処理しました。なお、今年度の総搬出量は774.9kg（前年度527.8kg）で、山の鼻ビジターセンター施設内外の不要品を整理搬出したため搬出量増となりました。

## 7 定時気象観測

5月31日～10月30日までの毎日、9時と15時に視程・雲量等の目視観測を行うとともに、山ノ鼻地区に設置した気象観測機器で気温・降雨量などの観測を行いました。

## 8 ニホンジカ対策（写真 9）

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受け、深刻化するニホンジカによる湿原植生等の食害被害を把握するために、研究見本園などの攪乱地において防鹿柵や自動撮影装置の設置・撤去を行い、定期的な巡視・点検を実施しました。





(写真 1)

自然観察会

週末や繁忙時期を中心に、  
山ノ鼻研究見本園を会場と  
して実施。

時間：朝 7 時 1 5 分～ 8 時



(写真 2)

団体レクチャー

事前に依頼されたグループ  
を対象に目的に応じたスラ  
イドショーや自然観察会を  
実施。

時間：各 4 0 ～ 6 0 分程度



(写真 3)

施設等の維持管理

木道補修の様子で、簡易な  
補修を実施。





(写真 4)

施設等の維持管理

山の鼻公衆トイレの清掃の様子。綺麗で快適な利用環境に配慮した清掃の実施。



(写真 5)

保護柵設置

踏み込み防止のために設置。至仏山東面登山道、笠ヶ岳の一部で実施。



(写真 6)

至仏山気象観測

至仏山保全対策の実効性や評価に資するため、至仏山8箇所にて9基の気象観測装置を設置し、温度・雨量の計測を行う。





(写真 7)

開所式

5月16日、財団関係者や  
山小屋関係者、登山者等の  
参加により開催。



(写真 8)

ツキノワグマ対策

人とツキノワグマが不意に遭  
遇する可能性を減らすため、  
繁茂しているササやヨシ等の  
刈り払いを実施。



(写真 9)

シカ防止柵巡視点検作業等  
自動撮影装置点検の様子。

## コラム 尾瀬ボランティア

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー ～

### 全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは主に利用者に対する自然保護思想の普及啓発、美化清掃を行うために（公財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成8年6月から組織されています。呼びかけの結果、全国から287人が登録され活動しています。

### 多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けてプロテクターの活動と、インタープリターの活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

（プロテクターの活動）

入山口（鳩待峠、沼山峠、大清水等）での啓発活動  
入山口周辺や尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺等での美化巡回  
至仏山東面登山道整備

（インタープリターの活動）

お話しボランティア活動（定点解説）  
ビジターセンター支援ボランティア活動

### 現在の登録状況

287人（平成27年2月28日現在）

内訳：21都府県（群馬県81人、東京都44人、埼玉県41人、千葉県・神奈川県54人他）

平均年齢 65.3歳（最年長84歳、最年少32歳）

### 各年度ごとの取り組み

（括弧内は参加のべ人数）

平成17年度以前については、当財団ホームページより、過去の運営記録をご覧ください。

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
登録者数	367人	348人	363人	355人	365人	340人	347人	311人	287人
（内容現在日）	（H19.1.31）	（H20.1.31）	（H21.1.31）	（H22.1.31）	（H23.1.31）	（H24.1.31）	（H25.1.31）	（H26.3.28）	（H27.2.28）
入山口啓発活動	27日(249)	25日(177)	29日(153)	45日(146)	45日(114)	44日(135)	48日(126)	40日(98)	40日(115)
スポット解説	19日(63)	19日(44)	42日(43)	28日(56)	33日(58)	20日(34)	25日(35)	27日(32)	18日(25)
移入植物除去									
植生復元※	16人	13人			3人	5人	5人	7人	5人

#### 【略歴】

- 8年度 尾瀬クリーン大作戦（以降「ありがとう尾瀬清掃」として継続）
- 9年度 鳩待峠路上駐車防止（現在は休止）
- 10年度 至仏山登山道整備（以後継続）  
沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置
- 11年度 啓発活動従事者講習会  
尾瀬ボランティア帽子配布
- 12年度 県道沼田、檜枝岐線の植生回復作業（現在は休止）  
お話しボランティア用の旗作成
- 13年度 鳩待峠に「尾瀬ボランティアハウス設置」
- 16年度 各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備
- 19年度 ビジターセンター支援ボランティア活動開始

※植生復元

15年度までは至仏山、16～18年度は横田代、19年度は鏝ヶ岳、22～26年度は至仏山で実施

～ 尾瀬ボランティアのみなさま、これからも充実した運営のためにご協力をお願いします ～

# 平成26年度 尾瀬ブナの森ミュージアム運営記録

## I ミュージアム管理運営（写真 1, 2）

檜枝岐村が設置した尾瀬ブナの森ミュージアム（以下、「ミュージアム」とする）の管理運営を受託しました。環境省の施設である尾瀬沼ビジターセンターや群馬県の施設である山の鼻ビジターセンターと情報共有を図りながら業務を実施しました。

### 1 運営期間

- (1) 期 間：平成26年 5月23日 ～ 平成26年10月20日 （151日間）
- (2) 毎週金曜日～月曜日の4日間 職員が常駐 （89日間）

### 2 取扱時間

- (1) 施設開館 8:00～16:00
- (2) 窓口案内 8:00～16:00

### 3 入館者数

3,291人（財団職員が常駐した日における入館者数）

### 4 職員構成

- (1) 常駐人数 1人 ※常駐の駐在員の他、山の鼻ビジターセンターから交代で職員を派遣
- (2) 構成

職	氏 名	主 な 分 掌 業 務
檜枝岐事務所 駐在員	渡邊章男	窓口対応、情報収集、施設管理
ビジターセンター職員	交代制で勤務	窓口対応、情報収集、施設管理

## II 接客業務（写真 3）

尾瀬国立公園（特に尾瀬沼方面、燧裏林道）、檜枝岐村の周辺地域、新潟方面ならびに会津方面などの道路状況、公共交通機関を利用するアクセス方法や自然解説業務を行いました。また多くの人に利用してもらうために、館外にて周辺の案内やミュージアムへの誘導等も行いました。

## III 自然や利用に関する情報提供

尾瀬国立公園に咲く植物の情報や、燧ヶ岳・会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山などの登山道情報及びツキノワグマ目撃情報などについて、情報の提供を行いました。なお、開花情報や登山道情報は、山の鼻ビジターセンターが作成している「尾瀬情報」及び尾瀬沼ビジターセンター（環境省施設）発行の「登山道情報」の最新版を掲示し、バックナンバーはファイルにして閲覧できるようにしたほか、巡回の際に周辺の施設・山小屋に対して配布し、情報提供を行いました。

また、ミュージアム周辺の自然情報等の収集として、御池田代やスモウトリ田代などの巡回を通じて、開花状況やツキノワグマ出没の痕跡を確認し、情報提供を行いました。

その他、パンフレットの配布や尾瀬国立公園誕生時に作成されたDVDの上映により、尾瀬国立公園の利用について啓発を行いました。



#### IV その他

開館日において施設利用者数をカウントし、月別に集計を行い、結果の報告を行いました。また、館内の清掃及び駐車場等のゴミ拾い等を行い周辺環境の美化に努めました。



(写真 1)

ミュージアム外観

檜枝岐村により、尾瀬の入山口の1つである御池に設置されています。

開館：朝8時00分～16時00分



(写真 2)

ミュージアム1F展示室

尾瀬国立公園のジオラマを始め、自然や文化等幅広い内容の展示がされています。



(写真 3)

入館者への対応

常駐する職員により、入館者への各種情報提供や啓発を行いました。

## コラム 尾瀬自然解説ガイド

### ～ ビジターセンターのサポート ～

#### 尾瀬自然解説ガイドとは ～自然に親しむお手伝い～

主に滞在時間の短い入山者を対象にした自然解説のためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。参加料は1人当たり500円～1,500円で、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。ガイド本人には、戸倉・御池～現地までのバス代などの一部を補う程度で、給与や報酬は支給していません。なお、尾瀬自然解説ガイドの催行はビジターセンターが起点、終点になっています。

#### 活動の意義 ～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット2002で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取組が始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの入山者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえるよう活動を続けています。

#### 活動の実績

平成18年度以前については、当財団ホームページより、過去の運営記録をご覧ください。

年度	合計利用者数（人）	尾瀬ヶ原ガイド利用者数（人）	尾瀬沼ガイド利用者数（人）
19	252	245	7
20	452	448	4
21	294	290	4
22	292	292（内尾瀬学校は113）	0
23	239	197（内尾瀬学校は135）	42
24	642	450（内尾瀬学校は372）	192
25	890	633（内尾瀬学校は558）	257（内環境学習は255）
26	155	155（内尾瀬学校は122）	0

#### 信頼される自然解説ガイドを目指して ～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、IP（インタープリテーション）研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修を経て、ガイド登録を行っています。現在26名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、2年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既登録者対象の技術研修を実施するなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

#### ビジターセンターとの連携 ～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジターセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジターセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約に登録され、また単独の尾瀬国立公園に指定されたことにより、さらなる注目を集めています。安心して安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要になっていくことでしょう。

～ ビジターセンター利用者のみなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします ～

## 巻末資料 1

### 平成26年度 ビジターセンター傷病者対応事例

#### 尾瀬山の鼻ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

転倒事故	5月29日(木)11時30分頃、ガイドより通報。逆さ燧の池塘付近で負傷者を発見。木道で転倒し足首を負傷。歩行困難なため防災ヘリ要請。13時頃に搬送された。
転倒事故	5月31日(土)7時00分頃、鳩待峠と山ノ鼻間で転倒。歩行困難なため防災ヘリ要請。9時05分頃に搬送された。
転倒事故	6月12日(木) 11時頃、鳩待峠と山ノ鼻間のヨセ沢付近にて転倒し腰を負傷。この日は、山小屋に宿泊して様子を見ることになった。翌日確認すると、歩行困難なため救助が必要と判断し防災ヘリを要請。9時頃に搬送された。
転倒事故	6月13日(金)11時50分頃、傷病者の友人より通報。右膝を負傷しており、歩行困難なため防災ヘリ要請。13時40分頃に搬送された。
転倒事故	6月16日(月)15時15分頃、通行人により傷病者の報告あり。上ノ大堀川付近で転倒し頭部から出血。職員到着時には、概ねガーゼで止血済み。救助が必要と判断し防災ヘリ要請。15時55分頃に搬送された。
転倒事故	6月23日(月)12時頃、山小屋より報告あり。木道で転倒し左足首を負傷。歩行困難なため、防災ヘリ出動。13時50分頃に搬送された。
転倒事故	7月12日(土)10時頃、山ノ鼻地区の木道で左足首を負傷。担架搬送で準備していたが、防災ヘリの要請に変更。見本園まで傷病者を担架搬送し、15時30分頃に搬送された。
転倒事故	7月13日(日)16時頃、山小屋より傷病の報告あり。転倒して左肩を負傷。この日は山小屋泊まりで様子を見ることになったが、翌日防災ヘリを要請し9時30分頃に搬送された。
転倒事故	7月18日(金)15時頃、見晴地区にて転倒事故。左脚のふくらはぎを負傷し歩行困難。そのため、鳩待峠まで担架搬送を行うことに決定。合わせて救助を要請し、山ノ鼻地区で救助隊員と合流、傷病者を引き渡した。
転落事故	7月20日(日)15時頃、ガイドより救助要請あり。山ノ鼻と鳩待峠の間で、2名が登山道から転落。職員が向かい状況を確認。特に怪我はないようだが、同行者に確認し救助を要請。救助隊到着までに、ガイドの協力で2名を登山道まで引き上げることに成功。すぐに救助隊が到着し引き継いだ。
体調不良	7月22日(火)6時頃、山小屋より傷病の報告あり。ろれつが回らない、吐き



気がする方がいるということで職員が向かう。外傷はないが、明らかにろれつが回っていないため防災ヘリを要請。10時30分頃にヘリで搬送された。その後、15時頃に消防から連絡があり、この方は軽い脳梗塞であったとのこと。

転倒事故 8月18日(月)11時頃、山小屋より傷病の報告あり。木道で転倒し左足首を負傷。歩行困難なため防災ヘリを要請。研究見本園までは担架で搬送し、14時20分頃にヘリで搬送された。

転倒事故 8月22日(金)14時30分頃、環境省職員が所有する無線から牛首を下ノ大堀川に少し向かった所で傷病の報告あり。職員が向かったところ、木道で転倒し右胸部を強打。歩行困難なため防災ヘリを要請。体温がなるべく低下しないようにしながらヘリの到着を待つ。16時頃にヘリが到着し搬送された。

転倒事故 10月5日(日)7時頃、同じツアー参加者が転倒して動けないと通報あり。職員が現場に向かい状況等を確認。救助を要請し、救助隊到着までは山小屋と協力して担架搬送を行う。ヨセ沢付近にて救助隊と合流し、傷病者を引き継いだ。

転倒事故 10月5日(日)11時頃、ツアーの添乗員より「ツアー参加者が負傷して動けなくなったため助けて欲しい。」と通報あり。職員が確認に向かうと、テンマ沢湿原にて傷病者を発見。救助を要請し、救助隊到着までは山小屋と協力して担架搬送を行う。ヨセ沢付近にて救助隊と合流し傷病者を引き継いだ。

他に職員による簡易的な処置が46件ありました。

## 巻末資料 2

### 平成26年度 尾瀬のできごとをふりかえる

平成23年度の東北地方太平洋沖地震の影響により、入山者数が30万人を下回っていましたが、24年度以降入山者が増えています。今年度は8月の天候不良の集中により、315,400人と25年度より入山者が少なくなりました。尾瀬の植物ではワタスゲの果穂が近年まれに見る大豊作の年となりました。

#### 尾瀬周辺のできごと

##### 5月

- 1 山の鼻ビジターセンター仮オープン  
(4月24日から開設準備作業)
- 7 職員研修
- 9 職員上山
- 16 山の鼻ビジターセンター開所式
- 16 VC支援ボランティア始まる
- 17 クマ研修
- 17 鳩待峠啓発活動(コーディネート)
- 18 カッコウ初鳴き(山ノ鼻)
- 19 背中アブリ田代・見本園・竜宮に防  
鹿柵設置
- 21 尾瀬山開き(戸倉地区)
- 23 御池～沼山峠間バス運行開始
- 23 プナの森ミュージアム勤務開始
- 24 沼山峠啓発活動(コーディネート)

##### 6月

- 4 チシマザクラ開花(山ノ鼻)
- 6 檜枝岐出張開始(プナの森勤務・巡  
回業務)
- 7 沼山峠啓発活動(コーディネート)
- 7 ごみ持ち帰り運動(鳩待峠口)
- 7・21 轟音玉講習会(水上・片品)
- 8 田代山 山開き
- 9 エゾハルセミ初鳴(山ノ鼻)
- 14・15 尾瀬ボランティア講座
- 14・15 鳩待峠・大清水啓発活動  
(※AGFサンプリング)
- 14 オサバグサ祭 (29日まで)
- 21 至仏山東面登山道踏み込み防止柵  
設置  
尾瀬ボランティアが協力

- 21・22 鳩待峠・大清水啓発活動  
(※AGFサンプリング)
- 29 至仏山気象観測装置設置

##### 7月

- 1 第9回至仏山 山開き(鳩待峠口)
- 5 会津駒ヶ岳 山開き
- 6 燧ヶ岳山開き
- 8 笠ヶ岳登山道踏み込み防止柵設置
- 12 大清水～一ノ瀬間低公害車両試験  
運行開始(～9月19日 群馬県)
- 12・13 鳩待峠・大清水啓発活動  
(※AGFサンプリング)
- 13・14 白尾・皿伏コース巡回と  
倒木処理
- 16 ハイケボタル初見(山ノ鼻)
- 20・28 クマ対策草刈り(見本園)
- 26 田代山・帝釈山清掃活動
- 29 尾瀬子どもサミット開催  
8月1日まで(職員2名派遣)  
(場所:尾瀬沼)

##### 8月

- 2・3 尾瀬ボランティア交流会(見晴  
地区)往路と帰路で巡回清掃を  
実施
- 4～ 原の川上川付近にて子グマが頻繁  
に目撃される(追い払い実施)
- 10 台風11号通過
- 19 福島県尾瀬保護調査会調査  
植物調査、動物調査(21日まで)
- 23 会津駒ヶ岳巡回清掃
- 29 至仏山保全対策現地研修(飯豊連峰)  
(31日まで)

## 尾瀬周辺のできごと

### 9月

- 1 尾瀬サミット開催（片品村）  
（2日まで）
- 6 ありがとう尾瀬清掃（大清水～  
尾瀬沼）
- 12 山ノ鼻地区十二山神祭
- 13・14 至仏山植生復元作業  
尾瀬ボランティアが協力
- 21 初霜（最低気温-0.8℃）
- 27・28 鳩待峠・大清水啓発活動  
（※AGFサンプリング）

### ※AGFサンプリングについて

平成26年度は、当財団にご寄付をいただいている群馬県太田市に生産拠点をもつ、味の素ゼネラルフーズ(株)（AGF）と連携して啓発活動を実施しました。ごみ持ち帰り運動の一環として入山者に対してごみ袋を配布するとともに、AGFのサンプリング（スティックコーヒー）を行いました。

### 10月

- 4・5 鳩待峠・大清水啓発活動  
（※AGFサンプリング）
- 13 至仏山気象観測装置撤去
- 17 至仏山・燧ヶ岳初冠雪
- 18 至仏山東面登山道保護柵撤去  
尾瀬ボランティアが協力
- 19 ありがとう尾瀬清掃（尾瀬ヶ原）
- 26 山の鼻VC閉館（17時）
- 28 初降雪
- 29 見晴沼尻川橋橋板撤去
- 31 山VC冬囲い  
ごみ持ち帰り横断幕外し  
気象観測装置撤去  
管理員下山

### 11月

- 9 尾瀬ヶ原の橋板撤去（下ノ大堀川）
- 10 山の鼻公衆トイレ閉鎖準備
- 11 受電停止作業対応・公衆トイレ閉鎖
- 11 職員下山

---

## コラム 一般の方から寄せられた声

### ～ ビジターセンターに寄せられた声から ～

---

- ・オコジョがでやすいのはいつでしょうか。
- ・ガイドツアーが多いときはダンゴ状態で動きがとれない。ガイドさんも一般登山者の事を考えてツアー客に指示して欲しい。
- ・ヨッピつり橋の写真が見たかったです。今回時間がなくて行けなかった為、又いろいろなコースの見どころの写真を。
- ・水洗トイレにsit(汚物を拭いた紙のこと)を流さないように外にごみばこを置くと良いと思います。外国(アメリカ、ヨーロッパ、メキシコ、トルコetcなどに住んだ)旅をしたがほとんどの国ではトイレットペーパーは流さず、ごみばこに捨てるように書いてあります。
- ・昨日、アヤメ平を歩き、今日は尾瀬が原を竜宮からきました。アヤメ平の登りと下りで指道標としてピンクのビニールテープが付けられていますが、古くなったものがあちこちに落ちていました。なるべくひろってきましたが、できれば整備をするときに片付けていただけたらと思います。大好きな尾瀬を守りましょう。
- ・がいどのあきこさんへ。おぼえていますかいまはおぜにもどってきました。きょう山ごやにとまります。ありがとうございます。
- ・木道のベンチとかでもタバコを吸っている方が多く気になります。全面（尾瀬内）禁煙にして欲しいです。せっかくの良い景色がだいなしです。
- ・はじめてきました。空気もおいしいしみどりもきれいだった。日本最高ありがとうございました。
- ・道の途中に花や動物の名前を書いた看板などが欲しいです。
- ・川上川の橋を渡る手前でかわいいオコジョを見ました!!
- ・傾斜地の木道は木よりゴム製が滑らなくて、つまづかなくて非常に良い。
- ・木道はゴム製にしたほうがすべらないのでよいと思います。

---

～ ビジターセンター利用者みなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします ～

## ～ 平成26年度 シーズンの尾瀬トピックス ～

- ◆ 尾瀬山開き・・・今年は戸倉（群馬県側）で開催  
尾瀬の山開きは、群馬県と福島県で毎年交互に実施されています。  
今年度は、群馬県片品村にあるぷらり館で行われ、本格的な登山シーズンの幕開けを祝いました。（5月21日）
- ◆ 尾瀬ガイドンス（現地）の開催  
尾瀬ツアーを企画している旅行会社や出版社を対象にガイドの活用、低利用時期・低利用地域への利用分散など、尾瀬の適正な利用方法について学んでいただくことを目的としています。  
今年度は、1日目に全員で道行沢コース、2日目は2班に分かれて尾瀬沼コースと会津駒ヶ岳コースを実施しました。（6月26日～27日）
- ◆ 尾瀬沼地区で尾瀬子どもサミット開催  
3県（群馬、福島、新潟）の小中学生が集まり、尾瀬の自然について学び、体験しました。また、3県の子どもたちの交流やふれあいを図りました。（7月29日～8月1日）
- ◆ 尾瀬サミット開催  
財団役員をはじめ尾瀬関係者が一堂に会し、尾瀬に関する課題等について話し合うため、「尾瀬サミット2014」を開催しました。今年度は、群馬県の戸倉で開催しました。前日には、大清水と一ノ瀬間を走る低公害車両の体験乗車や沼田街道の旧道を散策しました。（9月1日～9月2日）
- ◆ 尾瀬を知るための現地講座の開催  
この講座は、あまり歩かれていない尾瀬周辺部を散策することで隠れた魅力を知るとともに、古くから尾瀬と関わりながら生活を営んできた地元ならではの文化・歴史を体験することを目的としています。  
今年度は、福島県檜枝岐村と群馬県片品村の2回を実施しました。  
（檜枝岐村：10月18日～19日）  
（片品村：10月25日～26日）
- ◆ 平成26年度の尾瀬国立公園の入山者は315,400人で、対前年比91.6%でした。沼山口、大清水口では入山者数が増加しました。

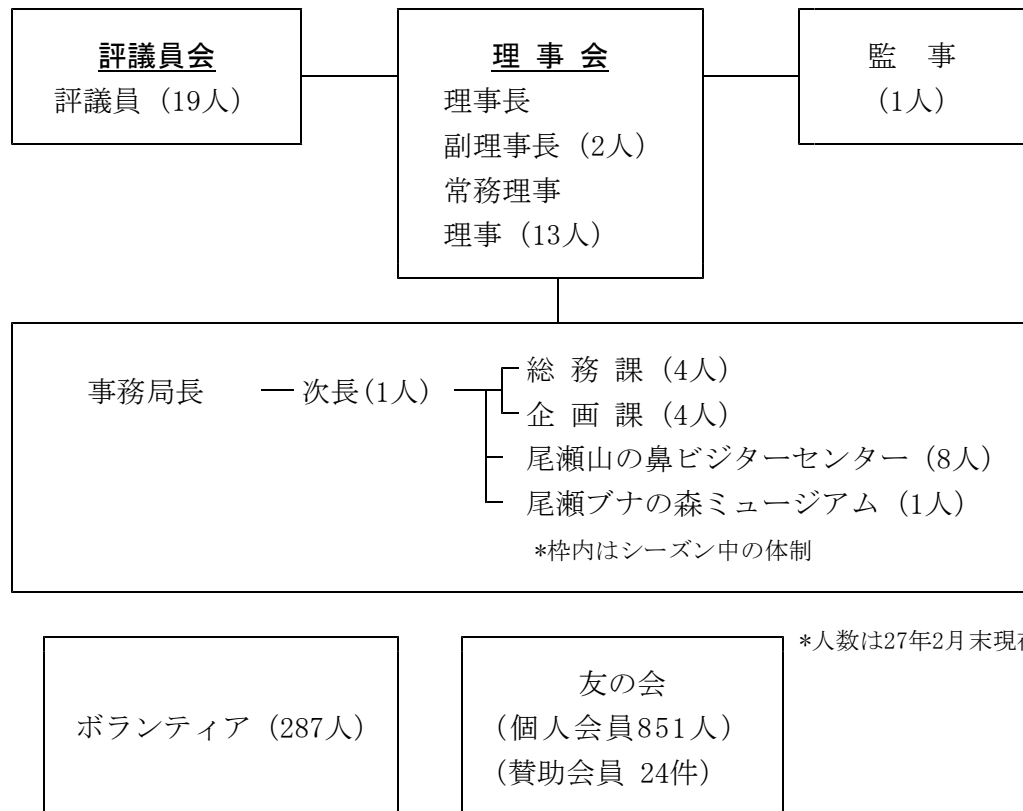
# 尾瀬保護財団の沿革と概要

## 財団の沿革

- 平成 4年 8月 4日 福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」（尾瀬沼山荘）
- 平成 7年 6月13日 財団設立発起人会（東京都内）
- 8月 3日 財団設立、第1回理事会（尾瀬沼ヒュッテ）  
群馬県大友庁舎（前橋市大友町）に事務所設置
- 平成 8年 5月15日 尾瀬沼ビジターセンターの運営開始（環境庁から受託）
- 5月18日 尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始（群馬県から受託）
- 平成 9年 4月 1日 群馬県公社総合ビル（前橋市大渡町）に事務所移転
- 平成11年 7月13日 特定公益増進法人に認定（財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度。以後2年毎に認定を更新）
- 9月 3日 群馬県庁（前橋市大手町）に事務所移転
- 平成25年 4月 1日 内閣総理大臣により「公益財団法人」への移行が認められる

## 財団の概要

- ・ 設立日 平成 7年 8月 3日
- ・ 基本財産 約15億円（平成26年度末現在）
- ・ 主な事業 入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究、顕彰事業など
- ・ 組織体制



## 施設概要

- ・ 尾瀬山の鼻ビジターセンター 設置者：群馬県  
鉄骨木造 2 階建 延床面積344㎡ 平成5年築  
展示室 69㎡ レクチャールーム 80㎡ 事務室 17㎡
- ・ 尾瀬ブナの森ミュージアム 設置者：檜枝岐村  
鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建 延床面積658.76㎡  
御池ロッジとブナの森ミュージアムの合体施工

## この冊子について

この冊子は、公益財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県設置）と尾瀬ブナの森ミュージアム（檜枝岐村設置）の平成26年度実績報告をまとめたものです。（今年度は当財団が尾瀬沼ビジターセンター（環境省設置）の運営業務を受託できなかったため報告がありません。）活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

### ☆集計方法について

#### 尾瀬山の鼻ビジターセンター入館者数 公衆トイレ利用者数

- ・施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。
- ・停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては特に補正していません。公衆トイレについては山の鼻のみセンサーが設置されています。

#### 尾瀬ブナの森ミュージアム入館者数

- ・職員により手作業でカウントした結果を集計しています。

#### 自然観察会

- ・平日の野外活動として実施した「平日朝の自然観察会」の実績を含んでいます。

#### その他

- ・比率（％）で示した数値は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しています。

平成26年度  
尾瀬山の鼻ビジターセンター 運営記録  
尾瀬ブナの森ミュージアム

平成27年 3月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

公益財団法人 尾瀬保護財団

TEL (027)220-4431

FAX (027)220-4421

ホームページ <http://www.oze-fnd.or.jp/>

E-mail [info@oze-fnd.or.jp](mailto:info@oze-fnd.or.jp)

# 山の鼻ビジターセンターの 自然体験プログラム

—— お問い合わせは ——

公益財団法人 尾瀬保護財団

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県庁17階  
TEL 027-220-4431  
FAX 027-220-4421  
E-mail info@oze-fnd.or.jp

山の鼻ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用してもらうためのさまざまなイベントを催しています。場所は山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）にあります（表紙裏の地図参照）ので、散策前に是非立ち寄ってみてください。

※ 天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合せください。

いつでも

## 窓 口

スタッフが尾瀬のことにお答えします。

窓口時間 山の鼻 VC 7:30～16:00

いつでも

## 展 示

尾瀬のことがわかりやすくとまっています。

開館時間 山の鼻 VC 7:30～18:00

いつでも

## 尾 瀬 情 報

花の見頃や登山道の様子が毎週更新されています。  
Check! Check! Check!

尾瀬情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。  
URL → <http://www.oze-fnd.or.jp/>

いつでも

## ビデオ上映

尾瀬のビデオが上映されています。  
急な申込みでも大丈夫！

山の鼻ビジターセンターで上映  
Hi-Vision「驚異の食虫植物モウセンゴケ」(20分)  
Hi-Vision「トンボ」(18分)  
Hi-Vision「クモ」(18分)  
「尾瀬その成り立ちとしくみ」(16分)  
「尾瀬はふるさと一空を渡る生き物たち」(10分)

\* ほかにさまざまなビデオがあります。お問い合わせ下さい。

いつでも

## セルフガイド

一人でも自然観察ができるガイドマップが揃っています。

「鳩待峠～尾瀬ヶ原」「研究見本園」「大清水～尾瀬沼」  
「アヤマ平」「燧裏林道」「尾瀬沼」などがあります。

日時限定

## 自 然 観 察 会

一緒に湿原へ出てみましょう！

周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。  
朝： 7:15～8:00  
※ 開催時期についてはお問い合わせください。

日時限定

## スライドショー

スライドのはなしを聞きながら尾瀬の不思議を知る

「今日のショーはあるの？」と利用者から尋ねられる  
程の定番企画です。まずは参加してみてください。  
夜 19:00～19:40  
※ 開催時期についてはお問い合わせください。

期間限定

## 企 画 展 示

尾瀬を深く知るための特別展示です。

※ 開催時期・内容についてはお問い合わせください。

要予約

## 団体レクチャー

グループで尾瀬を学びたいので、案内して欲しい

事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショー  
などのプログラムを実施しています（要予約）。

日時限定

## 尾瀬自然解説ガイド

実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間の  
ガイドをします（コース限定、有料、要予約）。  
※ 開催日についてはお問い合わせください。

日時限定

## お話しボランティア

平日の休憩ベンチには個性豊かな  
解説ボランティアさんがいます  
※ 開催時期・内容についてはお問い合わせください。

この他、山の鼻ビジターセンターに関する色々な情報は、尾瀬保護財団のホームページをご覧ください。